

## ソロモン諸島沖地震救援

## 「生計得る支援が必要」

AMDAの岡山で活動報告  
調整員帰国

四月に発生したソロモン諸島沖地震による津波被災者を支援していた国際医療ボランティア団体「AMDA」(岡山市櫛津)の調整員でオーストラリア国籍のニティアン



ソロモン諸島での活動を報告するヴィーラバグさん(右)。左は菅波代表

・ヴィーラバグ(38)さんが帰国し二十九日、同市内で記者会見した。ヴィーラバグさんは、地震発生九日後の四月十

二日に現地入り。同国北部のチョイスル島(人口約三千人)で、AMDAインドネシア支部の医師や現地の看護師らの医療

活動をサポート。今月十三日に帰国した。

家屋の大半が津波被害に遭った同島は、水道管損壊で給水が止まるなど衛生状態が悪化。AMD Aが診察した約四百人の患者には、マリアアや皮膚病が目立ったという。流行が収まり、現地の臨床看護師に活動を引き継いだ。

ヴィーラバグさんは「島民の多くは漁民で、船を失った人も多い。生計を得る支援が必要」と指摘。会見に同席した菅波代表(60)は「活動を機にソロモンの医師会と提携を進め、災害時に備えたい」と話した。

(教蓮孝匡)